

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年10月15日(木)

### 《善い人は、希望を持っている人》

昔話をしてみましょう。

古代中国に「堯舜」という時代がありました。堯という王と舜という王が治めた時代です。

紀元前 2390 年に堯という王様が王位についていました。今から約 4000 年前のものすごく大昔のことです。東洋平和論者たちは、「東洋で一番理想的で平和な時代は、堯舜時代であった」と言っています。しかしそれは、記録が残っている時代ではなくて、中国に伝説のように伝えられている時代です。

その時代に、享有(ギョウ・ユウ)というとても賢くて頭のよい人がいました。その時代の堯という王は、「あなたに王位を譲りたい。」と言ったそうです。しかし彼は、耳を貸さず、「このような話は聞きたくない。」と言って、山に逃げました。王から、「全ての権力や力をあげる。」と言われたのに、「そのようなものとは係わりを持ちたくない。」と言って、山奥に逃げたのです。

自分の意向を断わられた堯王は、腹を立てて、享有を殺そうとしました。だから彼は逃げ続けて、ある山の奥の小さい家に泊まることになりました。その家の主人に、「今夜一晩泊まりたいのですが、よろしいでしょうか。」と尋ねると、快く、「どうぞ入ってください。」という返事があり、泊まることになります。面白いことですが、貧しい小さな家の主人は、その時、自分の持っている帽子を享有が盗んでいくのではないかと心配をしていました。そして二人で酒を飲みながら、このように主人が言います。「あなたに家に入ってもらってから、急に疑いが起こりました。それは私の大事にしている帽子が目に入ったら、あなたが帽子を盗むかもしれない、という疑いです。」その話を聞いた享有は驚き、「私は、この世の中を全部あげるという話さえ断わって、ここまで流れてきたけれど、この人は、ただの帽子を盗まれるかもしれないと私を疑った。この世の中、人の心の働きは本当に分からないものだ。」と言い残したという言い伝えがあります。

今日の福音(ルカ 11・47 - 54)を読んで、もし律法学者やファリサイ派の人々が、イエス様が本当はどういう人物で、どういう意味を持って、この世の中に来ているかを少しでも分かっていたら、言葉じりをとらえようとねらったりはしなかったと思います。結局、今日の福音では、そのように訴えているイエス様の本当の心を分かろうとしなかったことが、彼らの一番悪いところだったのではないかと思います。ただ自分の権力を守るためだけに、イエス様の言葉に耳を貸さなかったのです。今日の福音をとおして、私たちが考えるべきことは、「善いことでも悪いことでも、それを口に出す前には、なぜ善いのか、なぜ悪いのか、それを分かろうとする必要がある。」ということです。ただの帽子のために相手を疑う愚かな家の主人の姿が、私たちの心の中にもあるのではないのでしょうか。今日の福音を読んで、イエス様を分からなければ、いつでもイエス様を十字架につけてしまう可能性があるのだ、ということを考えてみました。

さあ、少し違う話をしてみます。私たちは、「善い人」「悪い人」と、分けて話しをしますね。口ではっきり「あの人は善い人だ」「あの人は悪い人だ」と言わなくても、心ではそのように思うことがよくありますよね。では、善い人と悪い人の違いはどこにあるのでしょうか。分ける基準は何でしょうか。

客観的に見てみますと、ある心理学者(社会学者でもあるのですが)は、「その人が希望を持ってい

るかどうかによって、善い人と悪い人に分かれます。」と言っています。それでは、悪い人は希望を持っていないということでしょうか。そうです、持っていません。彼らが持っているのは欲望だけです。欲望とは、自分のことだけを考えることです。絶対に相手を中心にしない考え方です。その心理学者は「物を求め、権力を求め、今いる場所から誰かを追い出して、代わりに自分がその場所に立とうとするのは、‘希望’とは言いません。」と言っています。では、希望とは何でしょうか。その学者は「希望というのは、人間らしく生きたいと望む気持ちです。」と言っています。人間らしく生きることを諦めたら、それは欲望になってしまいます。結局、希望というのは、相手とともに考えることです。そう考えたら、私も結構悪い人になるのではないかと反省をしてみました。(笑)

しかし人間は、欲から解放されません。だから、このような弱い心を持っていることを認めながら、できるだけ人間らしく生きようと希望して行くことで、何とか乗り越えられるのではないかと考えてみました。

福音も、「私たちの信仰は希望だ」といつも言っています。よく考えてみると、今日の福音は、それと全く同じことではないかと思えます。「人間らしく生きる」というのは、神様が人間を創造されたときの目的に従って生きることです。いろいろな欲望に囲まれて、縛られた生き方をするのは、神様がもともと希望された人間の姿ではないと思いました。

ありがとうございました。